

▲▽▲▽御船印めぐりの旅▲▽▲▽

— 佐渡汽船株式会社 —

「おけさ丸」に乗船 佐渡島の魅力を探る

日本海に浮かび、暖流と寒流の接点にあり四季折々に表情を変える佐渡島。沖縄本島の3分の2に相当する面積の島は、かつては佐渡金銀山として栄えた。島の各所には、国指定の歴史的文化財が保存されているほか、尖閣湾をはじめとする絶景や風景が、人々の心を魅了する。この佐渡島と新潟を結ぶ佐渡汽船は、海の国道（350号線）としての役割を担い、島に暮らす人々や、島に魅せられて訪れる人々にとって欠かせない交通手段として活躍している。新型コロナウイルス感染症対策も万全にして、安全な旅行を提供しており、新潟港から「おけさ丸」に乗船して、千石船の里・宿根木を訪ねた

◇千石船の里・宿根木

「宿根木」は中世の頃に西廻り航路の中継地であった小木港からほど近く、廻船業者や船大工の住まいとして栄えた町。現在も船大工が造った独特の佇まいを持つ住居が並びます。住居外壁は、船板や船釘を使用しており、その外観は千石船を思わせます。中には三角形をした土地に建てられた「三角家」もあり、これは元々四角形だった家を三角形の土地に移築したもの。今は資料館として公開されており、その独特の部屋の形を見ることができます。宿根木には一般公開している家屋もあり、110棟の家々がひしめく路地を歩くとタイムトリップしたような感覚になります。

住宅地から坂をのぼると、「佐渡国小木民俗博物館」があり、千石船「白山丸」が実物大で再現されています。船内の見学も可能で、館内では「白山丸」建造の様子を映像で見ることできます。

宿根木は中世の頃より廻船業を営む者が移住し、小木港が江戸幕府によって整備されると、お互いに助け合いながら全国各地へ乗り出して商いを続け、船大工をはじめとする造船技術者によって、千石船産業の基地として整備され繁栄しました。

◇たらい舟・トキの森公園

佐渡島は、和船と桶樽の製作技術が融合した「たらい舟」と、国内では野生絶滅した貴重な鳥、国指定特別天然記念物の「朱鷺」が有名。「はんざり」と呼ばれる製作技術で造られた、「たらい舟」は、小木海岸の複雑な岩礁地帯での漁を可能とし、観光用の「たらい舟」も、小木港、宿根木、矢島・経島のそれぞれで、乗船できる。

トキの森公園は1994年にオープンした、「トキ資料展示館」と「トキふれあいプラザ」から成る施設。佐渡島でのトキ飼育の歴史などを解説したパネルが展示され、トキの美しさは必見です。

◇◇◇◇◇◇ 一般社団法人日本旅客船協会の公認事業「御船印めぐりプロジェクト」 ◇◇◇◇◇◇

プロジェクトに参加する船会社のオリジナルの御船印帳・御船印紙を購入し、参加会社の船や航路ごとに発行するさまざまな御船印を集めることができます。

御船印とは、神社仏閣めぐりで集められる御朱印の船バージョン。日本各地の船をめぐる船旅の楽しみをさらに盛り上げるため、客船や観光船などに乗船した際、船旅の思い出を彩る記念の押印（スタンプ）をいただくもの

「海員だより」